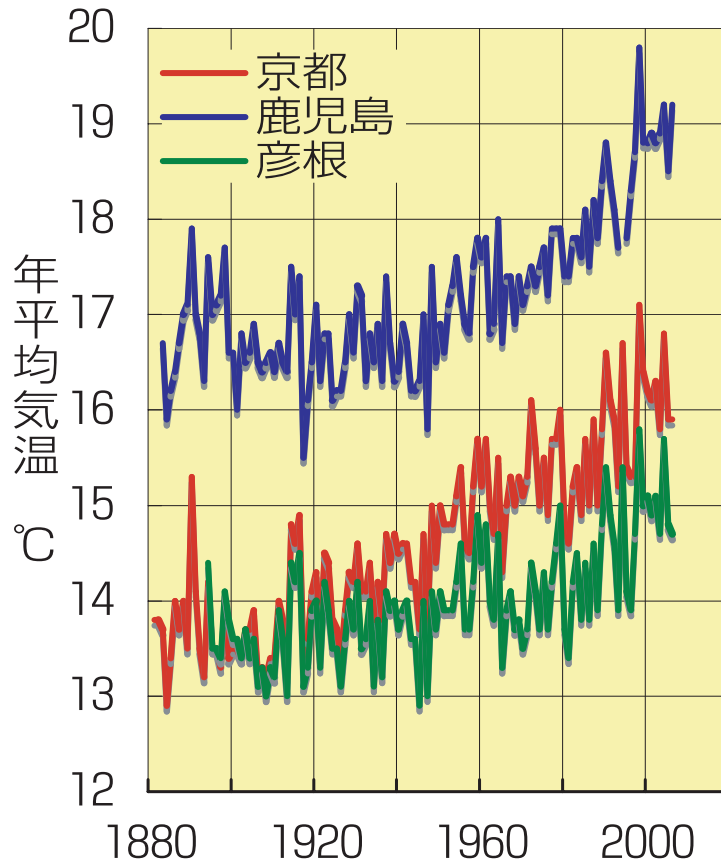


あむ 地球温暖化

きょうと 京都はすでに ねんまえ かごしま 60年前の鹿児島と おな きおん 同じ気温に！



京都・彦根・鹿児島の年平均気温の経年変化

くわしい説明 ~大人の方向け~

京都・彦根・鹿児島の年平均気温の変化をみると、いずれも上昇傾向を示しています。

ほとんど同じ緯度に位置する彦根と京都の気温を比べてみると、彦根が全国平均の地球温暖化による気温上昇率とほぼ同じで、100年間に約1°C上昇しているのに対し、京都の現在の平均気温は、ヒートアイランド現象により、彦根と比べて1°C以上も高くなっています。京都の都市効果による気温上昇は1970年頃に一段落し、その後は慢性化したヒートアイランド現象による気温上昇に地球温暖化分の気温上昇がプラスされた気温を示していると考えられます。なお、冬(2月)の都市効果の方が、夏(8月)の都市効果より大きいです。また最高気温にはそれほどの都市効果率はないものの、最低気温の上昇がはっきりあらわれています。つまり、ヒートアイランド現象によって、都市域は気温が下がりにくくなっていることがわかります。

「地球温暖化」と「ヒートアイランド」という2つの温暖化によって、近年の京都の年平均気温(15.9°C)は、60年前頃の鹿児島の気温(15.8°C)とほぼ同じになっています。とりわけ、夏(8月)の気温は60年前の鹿児島よりも高くなっています。

(龍谷大学経済学部教授 増田啓子氏)